

船
橋
市

農委だより

第95号 平成30年1月1日発行

(年2回発行)

発行 船橋市農業委員会

編集 農委だより編集委員会

〒273-8501 船橋市湊町2丁目10番25号

TEL 047(436)2742～5

URL <http://www.city.funabashi.lg.jp> (船橋市役所)

e-mail nogyo@city.funabashi.lg.jp



市内在住の 高尾 泉さん（103歳）作

新春のご挨拶



船橋市農業委員会

会長 岡庭一美



新年おめでとうございます。皆様方におかれましては、新春をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より農業委員会活動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

農業委員会法の改正に伴い、平成29年7月から農業委員と農地利用最適化推進委員が新体制でスタートし、今まで以上に農地利用の最適化を推進していくことが求められるようになってきました。

このような中で、本市の農業は都市近郊という立地条件のもと、多品目の野菜を中心に安定した生産を続けています。

他方、耕作放棄地の発生や、近隣住民からの雑草等による苦情といった問題も発生しております。

私たち農業委員と農地利用最適化推進委員は、農地利用状況調査や違反転用パトロールなど、農地を残し、

守っていく活動を行うとともに、農水産祭「都市農業PR」や学童農園等を通して地域の方々や子供達が農業への理解をより深めてもらえるよう、これまで以上に努めて参ります。

また、本市の更なる農業の振興に向けて、今後の長期的展望を踏まえた「船橋市農業振興計画」が、今年度中に10年ぶりに新しく策定されます。この計画が具体的な形となり、船橋の農業がより一層発展することを期待しております。

今後とも、皆様方の更なるご支援とご協力を賜りますことをお願い申し上げます。ご健勝を心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。



謹んで新年のご挨拶を申し上げます

委員一同

農業委員

小湯石藤菊高齋興神土石金岡
池浅井城池橋松山橋山川子庭
正清俊孝眞光教 茂博幸 一
一 春 郎 義 夫 子 勲 樹 之 男 晃 雄 美
(二和東) (八木が谷) (東中山) (高根町) (本中山) (旭町) (坪井町) (中野木) (豊富町) (三山) (馬込町) (東船橋) (前貝塚町) (三咲)

農地利用最適化推進委員

(議席順)

武白藤飯渡岩櫛伊齊伊平織
藤井平島邊佐田藤藤野戸橋
英廣尚行和常直賢義栄恵
夫 司 志 雄 雄 信 樹 司 夫 誠
(小室町) (神保町) (大神保町) (金堀町) (車方町) (坪井町) (飯山満町) (二和東) (金杉) (前貝塚町) (西船) (飯山満町) (東町)

農地の貸し借りを
するとき

農地を耕作目的で貸し借りする場合は、農地法又は農業経営基盤強化促進法に基づく手続きが必要です。

農地法による賃貸借の場合は、契約期間が満了する前に、更新をしないための手続きをしない限り、契約は法定更新されます。

一方、農業経営基盤強化促進法では、契約期間が満了すれば、貸主に自動的に農地が返ってきます。貸し借りを継続する場合は再設定の手続きをします。農業経営の規模拡大・効率化を図る担い手を支援するため、土地所有者が安心して土地を貸せるような仕組みになっています。(農業経営基盤強化促進法による貸し借りができる農地は市街化調整区域内に限られます。)

それぞれ一定の要件がありますので、農地を借りたい・貸したい希望のある方は、農業委員会にご相談ください。

※口約束はトラブルの元です！必ず正規の手続きをしましょう。

農業委員・農地 利用最適化推進 委員になって



小池 正一
(二和東)

新年おめでとうございます。

平成30年はどのような年となるのでしょうか？ この原稿を書いているのはちょうど台風21号が関東を直撃し22号が関東を狙っているという時です。皆さんのところは被害は出なかったでしょうか？ 年々自然災害の規模が大きくなっているような気がします。

船橋市は人口が60万人を超え、マンモス化の止まる気配は有りません。農地の中に家がという感じだったのが住宅の隙間に畑がと変貌を遂げ農業を続けていくのは大変な苦労が伴う事でしょう。

一農業委員として船橋の農業に何ができるか微力ですが、船橋の住人が一人でも多く農業への理解と応援者となってくれるような事ができたらと思います。

委員として皆様の農地に踏み入ることも有ろうかと思えます。その時はよろしく願いたします。



菊池 眞夫
(本中山)

一昨年農地法が改正され農業委員の選出方法が変わり、それに伴い「農業委員会」の所掌に属する事項に「利害関係を有しない者」が含まれないこととなり、そのような委員の一人として農業委員会に参加させていただきました。

数年前まで千葉大学園芸学部で農業経済学を講じておりましたが、専門とする研究分野は発展途上国農業発展論で、わが国の農業や農村に関する知見は誠に希薄であり、また昭和四十八年以来の船橋市民ではあるのですが、船橋の農業についても知識を持ち合わせておらず、さらに今回の農地法改正では「農業委員として女性・青年の登用を図るよう努めること」とされているのですが、その点では改正の趣旨に全く沿わない老爺であり、誠に頼り無い「中立委員」です。

ただ農業研究者として当然のことですが、わが国の農業にも強い関心を持っており、この機会に船橋の農業について勉強させていただき、その発展のために微力ながらお役に立てればと考えております。



白井 廣司
(神保町)

このたび、農業委員会法の改正に伴い新設された農地利用適正化推進委員に農業委員会より委嘱を受け一期生として着任しました。

着任後、柏市や八千代市などで行われた研修会に参加し、法の改正点や推進委員の使命などについて勉強してきました。また、先日、担当地区である神保町・大神保町などの現地調査も行ってきました。

推進委員の仕事については、耕作放棄地の予防・解消や利用集積など多岐にわたりますが、私といたしましては、行政や農業委員の方々と共に一つ一つ前進できるように努力していきたいと考えております。

また、東武船橋駅北口コンコースで毎年実施している「都市農業PR」などのイベントにも参加しながら消費者に対し、船橋農業のPRも行っていきたいと思っております。

千葉県は農業王国、その中でも船橋の農業は、春夏ニンジンや梨などをはじめとして生産量、品質・味、どれをとっても全国でも有数の農業生産地であると私自身感じております。

いずれにいたしましても、推進委員としての業務を進めながら船橋農業の活性化の一助になればと考えております。



三橋 誠
(東町)

私は3期9年間、農業委員を務めました。農業委員の時は、耕作放棄地対策検討委員として、農業後継者不足や担い手の高齢化によって荒地となった農地を開墾し、小学校や農家の人に畑を耕作してもらうように活動していました。

今回、農業委員会等に関する法律が改正され、新たに農地利用最適化推進委員に選出されました。

年々都市化が進み住民からの苦情などで、住宅地の中の畑は、農業を続けて行く事が難しくなってきました。

しかし、日本の農業を守り、安心安全な農産物を供給するために、大切な農地は守って行かなければならないと思います。

また、遊休農地や耕作放棄地が増加しているので、少しでも有効な農地として利用されるように、農業委員と連携し、農地の最適化を進めていきたいと思っております。



第50回農水産祭 「都市農業PR」 北海道・津別町も参加



用意した3180品の農産物が飛ぶように
売り切れていきました

船橋市農業委員会主催の「都市農業PR」イベントが昨年11月11日、東武百貨店船橋店（合谷俊一店長）、東武鉄道船橋駅（坂本昭弘駅長・管区長）前のコンコースで開催されました。

昨年は昭和12年に市制が敷かれてから80年、当イベントも50回目の節目の年となりました。当日は地元船橋の農家の方々が自ら作った作物を出品、展示・即売しました。

展示・即売に先立って開催された式典では岡庭一美会長が主催者を代表して「東武鉄道、東武百貨店の御厚意により昨年から本コンコースを使わせて頂き、心より感謝申し上げます。本日は委員会の方々、委員OB、農業モニターなど多くの方々の参加をいただき開催する運びとな

りました。船橋の農家の方々が地元船橋で生産した野菜類を市民・県民の皆様が直接販売することにより、船橋にうれしい野菜類が沢山あることを知っていただきたい」とあいさつ。続いて来賓の松戸徹船橋市長が「今年は50回目の節目のイベント。都市農業のPRを兼ねて農家の皆さんが手塩にかけて作った農作物の良さを多くの方々に知って頂きたい。船橋市は都心に近い便利な場所に位置していますが、都市農業も素晴らしい展開をしています。本イベントを通じて、そのことを広く知ってもらいたい。農業は都市の魅力の一つでもあります。また本日は昭和58年から交流のある北海道津別町のJA青年部の方々も参加・協力いただいております。」と述べました。合谷店長は「お客様との交流を通じて船橋農業の発展につなげてほしい。当コンコースは市民だけでなく沢山の人が通るところ。この機会に農業・農産品の良さを多くの人達に知ってもらいたい。東武鉄道は開設120周年を迎えました。今後につながる活動を期待しております」。坂本駅長は「船橋駅長であり、管区長でもあります。駅の責任者であると同時に地域の広報部長として活動してまいります」と船橋農業のPRに一役買う意欲をにじませるあいさつをされました。

展示・即売会は10時30分から開始され、10時から集まった方々が、坂本駅長の開始の笛を合図にドツと集まり、一時は混乱状態になるほどの盛況。取れたての小松菜、人参、



松戸徹市長が新鮮で安全
安心な船橋産野菜をPR

枝豆、さつまいも、さといも、春菊、白菜、大根、ピーナツ、ブロッコリー、ほうれん草、ラディッシュ、レタス、きゅうり、ねぎ、みつ葉、葉ボタン、シクラメン、梨、もち米、のしもち、卵などが見る見る間に陳列台からなくなり、追加・追加の連続となりました。

集まったお客様は老若男女、普段着の人、背広の人、そしてご夫婦で車椅子の方もおり、多彩な顔ぶれとなりました。

お客様は口々に「野菜は高い」と思っていたが、新鮮でかつ手頃な値段がうれしい、「この野菜はどう調理したら一番おいしく食べられるのか」などさまざまなり取りがみられました。

目を引いたのが広報部長を任ずる坂本駅長。デパート、スーパーを彷彿させるように「いらっしやい、安くて新鮮、売り切れ間近か、お早目にどうぞ」と大きな声で呼びかけ、関係者から「さすが」の声があがるなど、大いに盛り上がりを見せました。最後の野菜も一小时前には完売、全員ホツとしました。

委員会事務局、委員OB、農業モニター、そのほか御協力いただいた方々に、心より感謝申し上げます。

農水産祭アンケート結果

◆あなたが買物をするお店（農産物直売所を除くスーパー等）には、船橋市産の農産物は置いてありますか。

・置いてある 78名（78%）
・置いてない 12名（12%）
・わからない 9名（9%）

◆あなたは、船橋市内の農産物直売所（スーパーの産直コーナー、無人販売所も含む）をどのくらいの頻度で利用していますか。（複数回答可）

・週に2回以上 30名（30%）
・週に1回 31名（31%）
・月に1、2回 21名（21%）
・ほとんど利用しない 11名（11%）
・近くに農産物直売所がない 8名（8%）

◆本日の即売会で、「船橋産の農産物」を購入してみても、どんなことを感じましたか。（複数回答可）

・採れたてで新鮮な野菜だということがあった 76名（76%）
・普段では見慣れない野菜が売られていた 20名（20%）
・生産者と直接話ができて良かった 20名（20%）

◆あなたは、地産地消（市内での地元農産物の消費）についてどうお考えですか。（複数回答可）

・船橋は市街地が多いので、こんなに農産物が作られていると思わなかった 19名（19%）
・あなたは、地産地消（市内での地元農産物の消費）についてどうお考えですか。（複数回答可）

・地域の活性化につながると思う 74名（74%）
・船橋市産ならば生産者が身近に感じられ、鮮度が良く、安全・安心だと思ふ 44名（44%）
・旬の農産物や地域の食文化に対する理解が深まると思う 24名（24%）
・生産者との交流が図れると思う 8名（8%）

・食料の自給率向上につながると思う 22名（22%）
・船橋市産の農産物が食べれる飲食店をもっと増やしてほしい 17名（17%）

※回答者100名
ご協力ありがとうございました

農業委員・推進委員・モニター 合同視察会 神奈川で実施

農業委員、農地利用最適化推進委員、農業モニターの合同視察が昨年11月28日、神奈川県厚木市及び藤沢市で行われました。

厚木市では、厚木市農業委員会、JAあつぎ、のご厚意により遊休農地の解消に向けた取組みを現地視察をまじえて説明を受けました。

藤沢市にある株式会社「永田農園」では法人化に至る経緯や現在の取組みについて永田誠代表の説明を受け、都市農業の進むべき一つの方向について大変参考になる示唆を受け、有意義な合同視察となりました。

◎厚木市農業委員会と厚木市都市農業支援センターの取組み
厚木市は人口約23万人。市の面積、



JAあつぎの井萱諭課長から耕作放棄地を活用した新規就農者の支援を行う都市農業支援センターの取組みについて説明がありました

農地面積、遊休農地面積ともに船橋市と同規模で、都市近郊農業という点でも似かよっています。出迎えてくれた厚木市農業委員会の堀池春夫会長は「都市農業支援センターでは新規就農者を支援するため、委員会、市、JAあつぎが一体となって取り組んでいます。平成26年の設立時には年間500件位の相談件数でしたが、関係者の努力により、現在は3倍以上にのびります。厚木市は中山間地帯に田畑があるため鳥獣被害が増えていることが悩みの種です」とあいさつ。このあと一昨年10月から実施している農業委員、推進委員体制について「役割は異なるが、パトリールを一緒に行うなど情報の共有に努めています」と説明がありました。

厚木市都市農業支援センターは、市、農業委員会、JAあつぎの3者が中心になって設立。①新規就農者の促進②耕作放棄地の再生を中心に進めています。①の新規就農者については、県立の農業アカデミーを中心に神奈川県との連携強化、農地情報活用による農地マッチング、国の交付金（二分の一、残りを市とJAが補助）を活用した新規就農者の指導に取組んでいます。具体的には露地栽培から麦、大豆生産への転換。ここでは製粉機を導入して付加価値をつけています。加えて販路確保を確実にするためJAあつぎが全量購入して新たな販路の地元のパン屋さんなどに販売しています。また学校給食との連携についても模索し

ているところ。1アール当たりの売上げは30万円強。2ヘクタールでは約600万円の収入があるようです。儲かる農業へのワンステッブとなっています。今後の課題はいかに手間を省くかだと話されています。キャベツをまとめて加工会社に出荷するなど安定出荷に工夫をこらしているのが印象的でした。

◎藤沢市の株式会社永田農園を視察。法人化による業容拡大と新たな取組み

寒川神社に近い（株）永田農園（永田誠代表）を訪れました。同社は露地栽培中心の伝統的な農家でしたが、育苗ハウスの新設に伴う野菜苗や花苗栽培をきっかけに新たな販路確保や取組みを開始しました。夏季



寒さに強いパンジーの花苗が生産されていました

は野菜苗、冬季は花苗を栽培。花苗は年間約400万ポットを生産し、全量をホームセンターの（株）島忠を中心に販売しています。市場流通との価格比較のうえで決断したということです。農地は自前が3分の1、残りの3分の2は借り入れているということです。平らな場所ではハウスを設置、傾斜地では都市部のマンション住まいの団塊ジュニアを主体に体験農園として開放しています。3m×10mの1区画を年間4万8千円で開放。50種類にわたる野菜、つくりを、ベテランのJA職員OBが指導員として有機栽培を中心に研修しています。

法人化に伴って変化したことについて永田代表は「対外的な信用力が増し、資金調達が容易になったこと」と話していました。最大の課題は、人材の確保と定着。確保についてはインターネット、県立大学校、広告会社を活用していますが、その定着は悩みの種です。社会保険は整備できても週休2日制の実施はなかなか難しいとのことでした。海外研修生の受け入れも実施しており、また慶応大学との連携も実施するなど多彩な活動を展開しています。

新たな農業経営の方向の一つとして大変参考になりました。また永田代表を初めとした関係者の努力、特に県、市、JAの方々のかかわり方は同じ都市農業地域の船橋にとつて、大変に勉強になったと感じました。関係者の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

農地利用最適化推進委員の活動がスタートしました

農地利用状況調査を実施

平成29年は、10月から11月にかけて、新たに設置された農地利用最適化推進委員が、農業委員・事務局職員らとともに、農地利用状況調査を行いました。

農業委員会では、毎年、市内すべての農地を対象として、農地利用状況調査を実施し、遊休農地や、遊休化のおそれがある農地を把握しています。新体制となり、初の調査となる委員もありましたが、地元の委員を中心に、順調に行うことができました。

この調査では、地区ごとに、担当委員が実際に全ての農地を訪問します。現地では、「耕作されている」「耕作可能な状態」「耕作されていない遊休農地」といった、農地の状況を確認します。

確認のために必要がある時は、農地への立ち入りや、農業者の方にお話を伺うこともありますので、ご理解・ご協力をくださいますようお願いいたします。

なお、遊休農地と判定された農地の所有者に対しては、農地利用最適化推進委員が中心となって、農地利用意向調査を実施します。



農地として利用可能かどうか全ての遊休農地を調査しました

農地利用意向調査とは？

遊休農地の解消を目的として、所有者に対して、「自ら耕作を再開する」「農業者への貸し付けを希望する」「農地中間管理機構を通じた貸し付けを希望する」といった意向を伺うものです。

今後、利用意向調査を踏まえて、農地の貸し借りの相談への対応や、必要な指導など、地域の農地利用最適化推進委員を中心に取組んでまいります。

また、農地に関する心配事等がありましたら、お気軽に農地利用最適化推進委員、農業委員、農業委員会事務局まで「相談ください」。

農地利用最適化推進委員 担当区域

地区	担当推進委員	担当区域
第1地区	武藤 英夫	小野田町、小室町
第2地区	白井 廣司	大神保町、高野台、咲が丘、神保町、みやぎ台、八木が谷、八木が谷町
	藤平 尚志	
第3地区	飯島 行雄	金堀町、楠が山町、車方町、鈴身町、豊富町
	渡邊 和雄	
第4地区	岩佐 常信	大穴北、大穴町、大穴南、古和釜町、坪井町、坪井西、坪井東、松が丘
	櫛田 直樹	
第5地区	伊藤 賢司	金杉、金杉台、金杉町、夏見、夏見台、夏見町、二和西、二和東、馬込町、馬込西、丸山、三咲、三咲町、南三咲
	齊藤 義夫	
第6地区	伊藤 栄一	旭町、印内、印内町、海神、海神町、海神町西、海神町東、海神町南、葛飾町、上山町、北本町、行田、行田町、古作、古作町、栄町、潮見町、西浦、西船、東中山、日の出、藤原、二子町、本郷町、本町、前貝塚町、湊町、南海神、南本町、本中山、山手、山野町
	平野 恵昭	
第7地区	織戸 孝	東町、市場、米ヶ崎町、芝山、新高根、駿河台、高瀬町、高根台、高根町、滝台、滝台町、田喜野井、中野木、七林町、習志野、習志野台、西習志野、二宮、飯山満町、町、東船橋、前原西、前原東、緑台、三山、宮本、薬円台、薬園台町、若松
	三橋 誠	

農地としての権利移動（売買・貸借等）や、遊休農地に係るご相談は、農地利用最適化推進委員・農業委員・農業委員会事務局（047-436-2742～5）まで、ご連絡ください！

松戸徹船橋市長へ 平成30年度船橋市農地等の利用の 最適化の推進に関する意見を提出

9月1日に、平成30年度の農地利用最適化推進に関する意見書を松戸徹船橋市長に提出しました。

《意見書要旨》

I. 農業委員会等に関する法律の改正により、7月から、農業委員については市長の選任制へ移行しました。

制度改正後も、地域の代表制が確保され、農地の管理を担う機関としての役割が発揮できるよう、十分な配慮をお願いいたします。

II. 農業委員会では、農地の利用状況調査や、遊休農地所有者に対する意向調査等、遊休農地の解消に向けた取り組みを進めております。

今後は新たに設置する農地利用



農地利用の最適化に向けた農政への意見書を岡庭一美会長が松戸徹市長に手渡しました

最適化推進委員とともに、農地に係る調査の強化や関係者への働きかけ等、さらなる推進を図ってまいります。

市におかれましても、遊休農地の解消や活用に向けた事業を実施し、市内農地の有効利用を推進するようお願いいたします。

農業経営への支援、後継者対策及び新規就農への支援等に関する施策の拡充につきましても、併せて要望します。

III. 学童農園は、子どもたちにとって農業や食の大切さを学び、また地元船橋への郷土愛を醸成する貴重な体験の場となっております。

しかしながら、都市化の進展とともに学校周囲の農地が減少し、学童農園の継続を断念した学校があり、この先も継続困難となる地区が生じることが予想されます。

このような状況を踏まえ、今後継続して児童・生徒が農業の大切さを学ぶことのできるよう、教育委員会が主体となった積極的な施策の検討をお願いいたします。

IV. 農地の固定資産税等の課税にあたっては、農業者の生産性・経営実態を踏まえ、農業者の負担にならずに営農継続意欲を持続できる課税に努めるようお願いいたします。また、相続税については納税猶予の20年営農継続による免除制度の復活や、農地内の作業所、農業用倉庫等農業経営上必要な施設についても納税猶予の対象とするよう、国や関係機関への働きかけをお願いいたします。

学童農園

坪井小学校学童農園

坪井小の学童農園は、校庭に隣接する農地の一角にあり、子供達が頻りに自然と触れ合うことが出来る恵まれた環境にあります。

5月中旬に2年生がさつまいもの苗の植え付けを行いました。地面に対し、垂直に立てて植えてしまうと根付けが悪くなるので、農業委員の齋藤さんの指導のもと、子どもたちは、斜めに丁寧に植え込むようにしていました。

途中、雨が降らずに苗の生育が心配された時期もありましたが、10月



齋藤さんによる収穫の指導。
子供達は真剣に説明を聞いていました



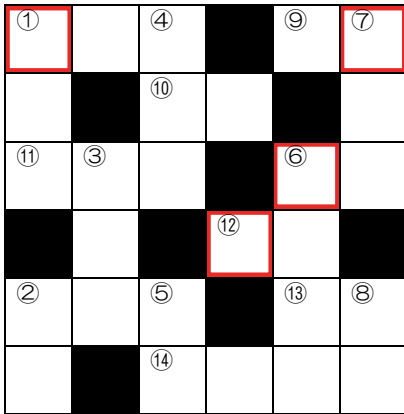
子供達からたくさんのお礼の寄せ書きが贈られました

下旬に無事収穫を迎えることが出来ました。収穫前に齋藤さんが蔓をある程度刈り取って掘り易いようにしてくださったため、子どもたちは一株に何本も付いたさつまいもを掘り上げては「見て見て！ いっぱい掘れた〜」「こんなに大きいんだよ！」と方々で歓声をあげて喜んでいました。掘ったさつまいもはお土産として各家庭に持ち帰ったほか、学校で行われた収穫祭でスイートポテトを作りました。

今後とも学童農園の取り組みを通して、子どもたちにより農業や農産物への関心を持ってもらい、自然を愛する心を育ててほしいと感じました。

結春クロスワードパズル

□の文字を並べ替えて、船橋ブランドとなっている農産物の名前をお答えください。



【たてのかぎ】

- ①発芽後、あるいは植物が成長した際に、込み合っている株を抜きとったり、茎を切りとったりして間隔を拡げること。
- ②苗代に種もみをまき、芽が出てから、田に植えかえる植物。
- ③「最優先課題」などの意味で使われる表現。一丁目一〇〇〇。
- ④地元で生産されたものを地元で消費すること。〇〇〇地消。
- ⑤昔、八百屋さん等で測り売りをするために使っていた。〇〇〇バカリ。
- ⑥正月七日に食べる〇〇〇〇粥。
- ⑦肥料の別の呼び方。
- ⑧メリハリが効いており、機敏である様子。〇〇〇のある動き。

【よりのかぎ】

- ①ビニールやポリエチレンフィルム等で畑の畝の上を覆い、保温、防虫、防草に使うもの。〇〇〇〇ンブ。
- ②昭和44年開設。いろいろな種類の青果、水産物が入荷する船橋地方卸売〇〇〇。
- ③船橋には、この妖精がいます
- ④環境にやさしく持続可能な農業に向けて、環境に配慮した農業計画が知事に認定された、農業者の愛称名。〇〇ファーマー
- ⑤えんどう豆やそら豆の外側の部分。
- ⑥主に農地所有者が安心して意欲ある農業者に農地を貸すようにするための利用権設定等を促進する法律名。農業経営〇〇〇〇強化促進法
- ⑦マングロの英語での呼び方。
- ⑧植物の器官のひとつで、葉や花や果実を支え、水分、養分の通路になっている。
- ⑨土中の水はけが悪かったり、水のやりすぎなどで、植物の根の部分が傷んでしまうこと。

【応募方法】

郵便はがきに、①パズルの答え、②住所、③氏名、④年齢、⑤電話番号、⑥農委だよりを読んでのご意見ご感想などをご記入の上、1月12日（消印有効）までに船橋市農業委員会事務局「クロスワード」係（〒273-8501 ※住所不要 Tel 047-436-2745）へ。ご応募いただいた方の中から抽選で5名様に船えもんグッズを差し上げます。たくさんの応募をお待ちしています。

編集後記

市長から農業委員を委嘱され、生まれ育った船橋市を改めて見る機会を得させてもらいましたが、断片的な知識しか持ち得なかった者としてその変化の激しさに大変驚いています。

船橋市全体の変化は言うまでもなく、農業及び農地の変化、特に近年の変化のスピードは想像をはるかに超えるものがあります。本来、農地として保存すべき市街地調整区域内の農地は至るところで分譲住宅を中心に住宅化が進んでおります。加えて市街地区域内では生産緑地の解除が予定されており、これが実行されれば更に農地の宅地化がスピードアップすることが予想され、優良農地の確保とこれに連なる様々な公益的機能や環境保全機能が、どこまで脅かされるか不安になります。

昨年十一月三日に催された市政80周年記念式典で配布された「80周年記念誌 上・下巻」を見ると船橋市の変遷の目まぐるしさは目をみはるものがあります。これほどの変化の中で農業を「生業（なりわい）」として、成立させるためにはどうしたら良いのか、課題が多岐にわたり、その難しさにただただ困惑するばかりです。80周年誌に投稿されている農家さんが「長男が農業を継ぐといった時、うれしさよりも不安の方が大きかった」というお話を聞きましたが、もしかしたら農業・農家の現状を的確に表現しているのかも知れません。

こうした不安をいくらかでも解消

するためにどうしたら良いのか解答は全く見えません。ただ農業もイノベーションで大きく変わる可能性はあるのではないのでしょうか。私の家は明治時代に梨づくりをし、その後、野菜やイチゴ作りをしていました。その梨が幾多の品種改良を経て、今日では船橋の名産品の一つになっております。時代によってニーズは異なり、その変化も著しいものがあります。

先般、委員の一人として現地調査をした際に副業（駐車場、駐輪場、アパート、店舗経営等）なしで営農している農家を訪れる機会が得られました。祖父母から父母そして長男夫婦に農業と家の存続をかけて伝承していく工夫と努力には懐かしさと共に大きな期待を持ちました。こうした方々が更に営農を続け、そのうえで社会的な地位をより高めるためにはどうしたらよいのか、真剣に考えるべき時期にきていると思います。

国や自治体、JAなどはそれぞれの立場から一生懸命努力していることは分かりますが、それを効果あるものにするにはどうしたらよいのか。国の施策は一律的になりがちだし、JAは協同組合としての役割が十全にはたせているか疑問が持たれているところ

です。農業委員会に出来ることは問題の大きさからみて限定的です。しかしながら推進委員の方々と力を合わせて微力ながら船橋市の農業の活性化、伝統農業の継続を目指していこうと新年に当たって決意しております。